

## 試験研究成果普及情報

部門	麦及び雑穀	対象	普及
課題名：極大粒ゆで豆用落花生新品種「おおまさり」の収量特性と栽培法			
〔要約〕落花生新品種「おおまさり」は、従来のゆで豆用品種「郷の香」に比べて子実が大きく、収量性が高い。収穫適期は、子実の熟度の“ばらつき”が小さく、多収となる開花期後 85 日頃である。栽培法は慣行に準じるが、1 株 2 本立て栽培で増収が図れる。			
キーワード 落花生、おおまさり、ゆで豆、増収			
実施機関名 主 査 農業総合研究センター・北総園芸研究所・畑作園芸研究室 協力機関 農業総合研究センター・育種研究所・畑作物育種研究室・ 落花生試験地			
実施期間 2005 年度～2007 年度			

### 〔目的及び背景〕

落花生の新品種「おおまさり」は、既存品種に比べて莢と子実が大きい特性を持つ。しかし、乾燥莢実では莢が大きい割に子実の充実が伴わず、外観から煎り豆用としてはやや不向きであった（写真 1）。そこで、子実が熟す前に収穫するゆで豆用栽培における収量性を従来のゆで豆用品種「郷の香」と比較し、その特性を明らかにする。また、好適な栽培法を明らかにする。

### 〔成果内容〕

- 1 「おおまさり」は、「郷の香」に比べて生莢の総莢実重が多く、ゆで莢のうち販売に向く上莢重も約 1.2 倍と多い。しかし、ゆで莢の上莢数は少なく、可販莢率が約半分である（表 1）。
- 2 「おおまさり」のゆで豆は、「郷の香」の約 2 倍の大きさで、硬度（平均値）が小さく軟らかいが、熟度の“ばらつき”（硬度の変動係数）が大きい（表 1）。
- 3 「おおまさり」のゆで豆用の収穫適期は、子実（ゆで豆）の熟度の“ばらつき”が小さく、多収となる開花期後 85 日頃である（図 1）。
- 4 「おおまさり」は、播種穴 1 か所当たりの株立て本数を増やすことで、ゆで莢の上莢数が増加し、1 株 2 本立て栽培による増収効果が高い（表 2）。
- 5 「おおまさり」の 1 株 2 本立て栽培における窒素施肥量は、落花生の標準量である 3 kg/10a が適する（表 3）。

### 〔留意事項〕

- 1 播種は 1 か所 2 粒播きとし、栽植様式及び施肥法は慣行のマルチ栽培に準じる。
- 2 4 月下旬から 5 月上旬播きでは、斉一な出芽や初期生育を確保するため、マルチ上に不織布（パスライトなど）をべたがけする。
- 3 茎葉の生育が旺盛なため、不織布やマルチ資材の除去は開花始期に行う。また、その他の栽培管理は慣行に準じる。

[ 普及対象地域 ]

県下全域

[ 行政上の措置 ]

[ 普及状況 ]

[ 成果の概要 ]

表1 落花生ゆで豆用栽培における品種別の収量

試験年度	品種	播種日 (月/日)	収穫日 (月/日)	生莢		ゆで莢			ゆで豆	
				総莢実重 (kg/a)	総莢数 (個/株)	上莢重 (kg/a)	上莢数 (個/株)	可販莢率 (%)	百粒重 (g)	硬度(抵抗値) (kg) (変動係数)
2005年	おおまさり	4/25	9/ 2(84)	129.2(157)	44	67.2(124)	16	36	281(210)	0.34 0.35
	(比較)郷の香	4/25	8/16(71)	82.2(100)	45	54.4(100)	28	61	134(100)	0.55 0.22
2006年	おおまさり	4/28	9/ 6(86)	180.8(186)	65	75.6(124)	18	27	306(222)	0.25 0.46
	(比較)郷の香	4/28	8/21(74)	97.3(100)	55	61.1(100)	33	60	138(100)	0.66 0.31

注1) 両年とも“べたがけ”マルチ栽培で試験し、栽培管理は慣行のマルチ栽培に準じた。

2) 収穫日の( )内数値は、開花期後日数である。

3) 生莢は2cm以上の莢を調査した(未熟莢を含む)。

4) ゆで莢は、生莢を2%塩水で40分間ゆで、冷ました後に調査した。上莢は、半透明、つぶれ、黒変、割れ莢を除いたものである。

5) 可販莢率は、総莢数に対する上莢数の比率を示す。

6) ゆで豆の硬度は、果実硬度計(KM-1型)を用いて調査した。

7) 総莢実重、上莢重、ゆで豆百粒重の( )内数値は、「郷の香」に対する比率を示す。



煎り豆(莢)      ゆで豆(莢)  
写真1 「おおまさり」の子実の外観

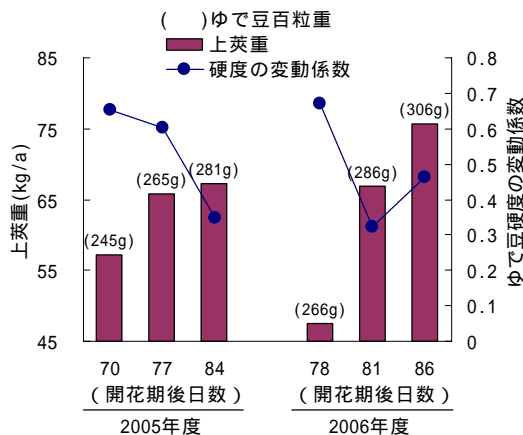


図1 ゆで豆用栽培における「おおまさり」の収穫時期別の上莢重、ゆで豆百粒重及びゆで豆硬度の変動係数

表2 ゆで豆用栽培における「おおまさり」の株立て本数の違いによる収量

試験年度	播種日 (月/日)	収穫日 (月/日)	株立て本数	ゆで莢			ゆで豆百粒重 (g)
				上莢重 (kg/a)	同左比 (%)	上莢数 (個/株)	
2005年	4/25	8/30(81)	標準(1本)	67.8	100	16	-
			2本	79.7	118	20	-
2006年	4/28	8/29(78)	標準(1本)	47.6	100	11	266
			2本	73.7	155	18	296
			3本	65.0	137	16	286

注1) 表1の注1)、2)に同じ。

2) 上莢数は、株立て1~3本(1株)当たりの個数である。

3) “-”印は未調査を示す。

表3 「おおまさり」の1株2本立て栽培における窒素施肥量の違いによるゆで莢収量(2007年度)

作型	播種日 (月/日)	収穫日 (月/日)	窒素施肥量 (kg/10a)	上莢重 (kg/a)	同左比 (%)	上莢数 (個/株)	可販莢率 (%)
“べたがけ” マルチ栽培	4/27	8/28(83)	標準(3kg)	84.6	100	22	52
			6kg	82.9	98	22	52
			9kg	75.7	90	20	51
マルチ栽培	5/18	9/18(85)	標準(3kg)	94.0	100	22	40
			6kg	84.8	90	21	40
			9kg	81.9	87	20	39

注1) 表1の注2)に同じ。

2) 土壌は表層腐植質黒ボク土、前作物はカンショである。

3) 上莢数は、株立て2本(1株)当たりの個数である。

[ 発表及び関連文献 ]

平成19年度試験研究成果発表会(作物部門)

[ その他 ]